

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 御嵩町地域公共交通会議

平成20年1月17日設置

調査事業（計画策定） 令和2年5月網形成計画策定予定

## 【地域の特性】

- 人口は、2019年4月現在で18,283人、1995年頃をピークに減少傾向
- 高齢化率は、2019年現在で約30%で少子高齢化が進行中
- 御嵩駅周辺や、住宅団地に人口集積が見られる一方で、特に**上之郷地域（東側地域）の過疎化**が顕著な状況
- 通勤・通学流動は、**可児市、八百津町との結びつきが強い**

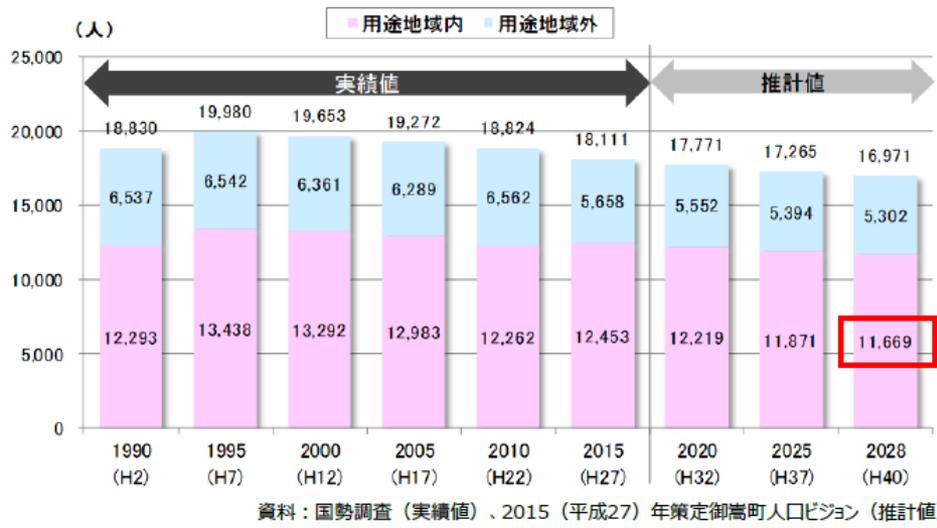
## 【公共交通ネットワーク】

- 名古屋・岐阜方面から名鉄広見線があり、御嵩駅が終点となっている。この御嵩駅を中心としてコミュニティバスが全町的に路線網を形成
- 八百津町と明智駅を結ぶY A Oバスも重要な通勤・通学の手段となっている
- 過度に自動車に依存しない社会を形成するため、コミュニティバスの利便性向上やパークアンドライドなどの施策を実施

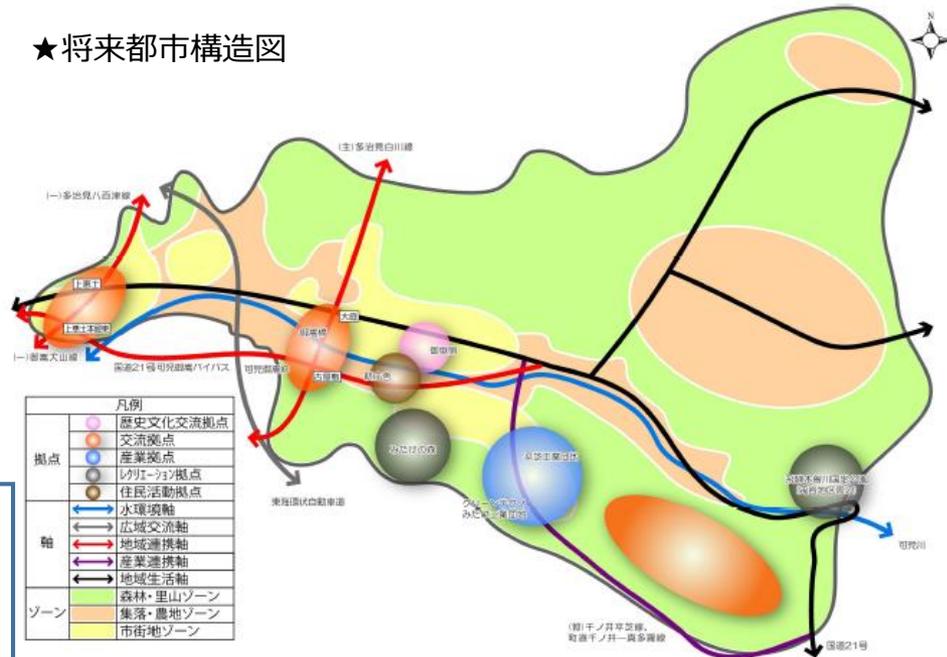
人口減少による利用者の減少、目的の多様化等に対応し、まちづくりと整合した公共交通ネットワークの形成を目指す

都市交通マスタープラン 計画期間 2019～2028年度

## ★将来人口フレーム



## ★将来都市構造図



## 御嵩町地域公共交通網策定に向けた各種調査の実施

表 各種ニーズ調査の実施内容

調査の種別	調査の目的	調査結果
住民アンケート	・住民の生活圏・交通圏、利用条件・利用意欲、費用負担のあり方などの把握	・15歳以上の町民1700人（4地区、年齢別）に配布、回収609票、回収率35.8%
利用者アンケート	・公共交通の満足度、改善事項、利用促進のアイデアなどの把握	・定時定路線の回収数は、平日1日で25票 ・デマンドバスの回収数は、平日2日間で17票
乗降調査	・町内を運行する定時定路線及びデマンドバスの路線別、便別、停留所別の利用実態（OD）及び公共交通相互の乗継利用等の把握	・定時定路線は、平日1日で69票
高齢者アンケート	・定時定路線及びデマンドバス利用のメインターゲットである高齢者のニーズを把握（委員提案）	・町内各4地区の集客施設（防災コミュニティセンター、御嵩公民館、老人憩いの家、ふらっとハウス）で実施し、回収数86票
事業者ヒアリング	***** *****	・実施予定（1月中）

## 住民との協働でつくる公共交通

### 【町内4地区において住民アンケート実施】

■公共交通のメインターゲットである高齢者に対し、町内4地区のサロン等にて、公共交通担当、高齢福祉担当及び社会福祉協議会職員が協働で聞き取りアンケートを実施し、疑問にお答えしながら細かなニーズをとらえることができた。

### 【利用者増を目標としたアイデアワークショップ実施】

■地域公共交通会議とは別に、公共交通との関係が深いふれあいバス等公共交通研究会のメンバー（官民協働）とワークショップ形式で意見を出し合うことで、アクションプラン策定に向けた具体的な意見を聴取することができた。

### 【おでかけバスシミュレーションの実施】

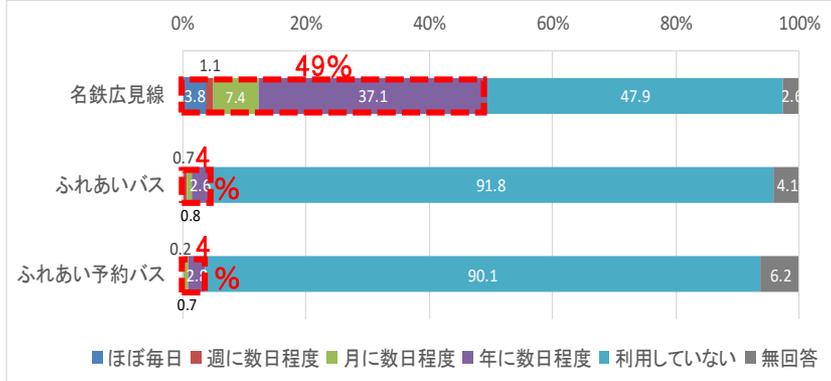
■まずは乗ってもらうことを第一と考え、町の生活学校と、老人憩いの家メンバーに対しておでかけバスシミュレーションを実施したことで、今まで乗り方が分からないと避けていた方から「これからは一人で乗れる」と好評をいただいている。シミュレーションを実施していただいた方々をインフルエンサーとして更なる利用増を見込んでいる。



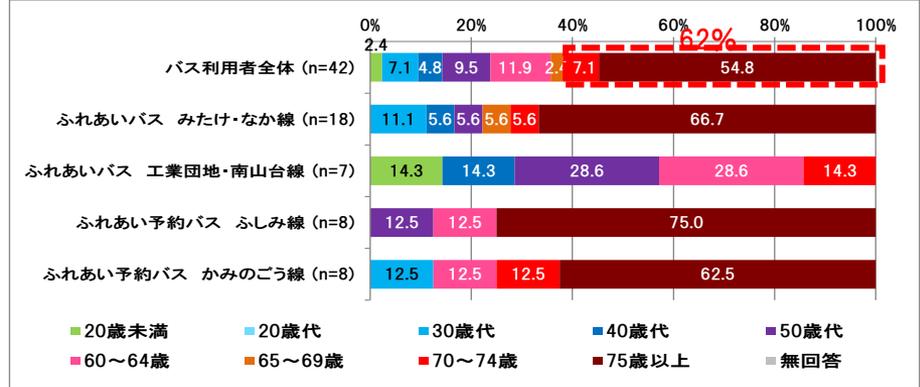
【自主運行バス全体の利用状況】

■ 定時定路線及びデマンドバスの利用率は約4% ■ 70歳以上の利用が約62% ■ デマンドバスの乗合率2以上

公共交通の利用頻度



自主運行バスの利用者年齢構成



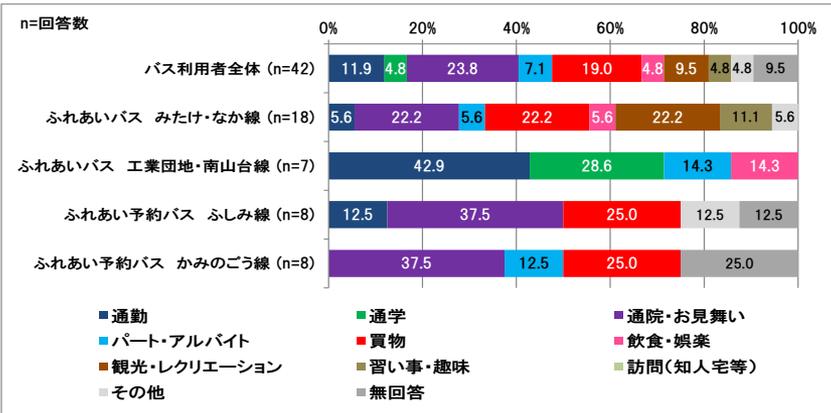
【ふれあいバスの利用目的】

■ みたけ・なか線では、「通院・お見舞い」が約24%と最も高く、次いで「買物」が19%  
 ■ 工業団地・南山台線では、「通勤」「通学」「パート・アルバイト」で約86%

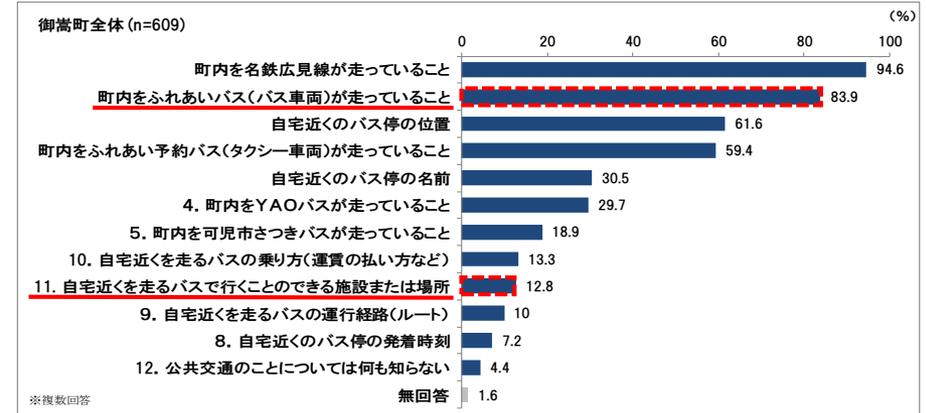
【認知度】

■ 「町内を名鉄広見線が走っていること」の認知度は94.6%、「町内をふれあいバスが走っていること」は83.9%、「町内をふれあい予約バスが走っていること」は59.4%、「自宅近くを走るバスで行くことのできる施設」は12.8%

ふれあいバスの利用目的



御嵩町の公共交通について知っていること



### 【利用者からの主な意見】

- 都合の良いときに利用できない。（デマンドバスは事前予約が必要）
- 便数が少ない。（名鉄は朝9時以降、1時間に2本以下）
- 乗り継ぎが悪い。（名鉄から自主運行バスや、JR）

### 【高齢者からの主な意見】

- 広域運行してほしい。（木沢記念病院等の町外（美濃加茂市、可児市）の病院）
- 早朝、土日も運行してほしい。（通勤、通学でデマンドバスが使えるように、朝7時台に運行便追加）
- どこでも乗降りできるとよい。（デマンドバスのフリー乗降）

### 【事業者からの提案】

- . . . . .
- . . . . .

※運転手へのヒアリングは1月実施予定

前ページからの集計結果を元に下のとおり分析

### 分析結果（中間）

- 名鉄広見線の利用率は約50%であるが、コミュニティバスやデマンドバスの利用率は4%と低く、経路・便数・ダイヤなどのサービスとニーズが合っていない可能性が高い。
- 一部の路線では、名鉄広見線との乗り継ぎが重視されており、利用環境の改善が不可欠。
- 鉄道やバスが運行していることは認知されているが、バスに関しては、どこをどう運行しているかの認知度が低い。
- 公共交通の情報が得られにくく、町民が勧める観光施設（可児市の花フェスタ記念公園、八百津町の人道の丘公園（杉原千畝記念館）、御嵩町の鬼岩公園など）との連携が不十分。

## 御嵩町における地域公共交通の課題と対応方針

### ① 路線で異なる利用目的や非利用者が利用可能となる移動ニーズ等への対応

ふれあいバス・予約バスの非利用者の利用が可能となるバスサービスの提供

### ② 将来都市構造の構築を見据えた公共交通の役割の明確化

みたけ・なか線、工業団地・南山台線の利用の違いを特に意識し、町内移動の充実とともに名鉄広見線へのアクセス機能の強化

### ③ 御嵩町及び周辺都市を含めた交通圏の移動需要に対応した公共交通手段の確保

観光・レクリエーション施設と公共交通が連携した地域の魅力を創出するバスサービスの構築

### ④ わかりやすい情報・案内の提供や利用しやすいバス交通へのサービス改善

利用しやすいバス交通とするための利用環境の改善

## 「みたけファンのくらしと交流を支える交通のまち」

### > 課題①②③ 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

### > 課題①③ 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

### > 課題①②④ 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

前ページの基本方針は、上位及び関連計画と整合が取れている。

基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

第3次御嵩町地域福祉計画 (2019～2023年度)

基本目標4「柔軟なサービスのしくみをつくる」に整合

③ 誰もが利用しやすい移動手段の検討

- ・車による移動ができない人や移動に困難を感じている人の把握に努め、誰もが利用しやすい移動手段を検討します。
- ・目や体が不自由になったことで、車の運転ができなくなり、生活に必要な物品の購入などが難しくなった人に対し、商品配達や送迎、訪問によって日常生活を補う、らくだネットを周知し、協力店の確保に努めます。

御嵩町第五次総合計画 (2016～2025年度)

方針3「多くの人が行き交うまち」、方針4「暮らしてみたいなるまち」に整合

方向性5-3 まちの特性にあわせた都市基盤を整備する

- 名鉄広見線の利用促進を図るとともに、駅周辺での都市機能集積とバスや自転車、駐車場との連携強化を進めます。
- 道路や橋、トンネルなどの適正管理と長寿命化により、安全・安心な道路環境づくり、幹線道路の改良・整備を促進します。
- 安全で安心な水の安定供給とともに、生活排水処理施設の整備と環境保全に努めます。
- 環境汚染防止のための監視体制の強化、環境美化活動を進めます。
- 空き家・空き地の適正管理を促すとともに、移住者の受け入れなどに生かします。
- 南山公園をはじめ、身近な公園や緑地の整備や適正な維持管理を推進します。

- ◆公共交通の利用促進と体系の見直し ◆道路の整備と維持管理 ◆上下水道の整備と維持管理
- ◆地域環境の美化促進 ◆都市公園等の維持管理

御嵩町都市計画マスタープラン (2019～2028年度)

都市づくりの基本目標2「人・環境に優しいネットワークづくり」に整合

Ⅱ 人・環境に優しいネットワークづくり

◆暮らしの移動手段として、環境にやさしい公共交通の利用促進、利用しやすい体系への見直し

本町における広域的な公共交通として、名鉄広見線が名古屋・岐阜方面から乗り入れており、御嵩駅が終点となっています。この御嵩駅を中心としてコミュニティバスが全町的に路線網を広げている状況です。高齢者や障がい者の日常生活や将来を担う子どもの通学の面からも、こうした公共交通の維持・確保は不可欠です。また、環境モデル都市である本町においては、低炭素社会の実現に向けても公共交通の利用促進を図ることが重要です。

そのため、過度に自動車に依存するのではなく、医療施設や商業施設、公共施設を有効に結ぶバス路線の検討、鉄道とバスとの接続の工夫など、鉄道とバスの双方が効果的に連携し、公共交通で移動しやすい都市づくりを進めます。

## 基本方針に基づき目標を定め、目標を達成するための個別事業を検討

### 基本方針Ⅰ

御嵩町の将来都市構造を支える公共交通ネットワークの形成

(指標例) 公共交通の利用者数、満足度

### 基本方針Ⅱ

広域連携・交流を促進する新たな広域路線の導入に向けた取り組みの推進

(指標例) 名鉄広見線の利用者数、観光施設の入込客数

### 基本方針Ⅲ

わかりやすく・利用しやすい公共交通利用促進施策の展開

(指標例) 公共交通の認知度・満足度、関係者が連携した取り組みの件数

### 公共交通の利便性向上

名鉄広見線、ふれあいバス、予約バスのサービス改善により非利用者の利用を可能とする

(事業例) ふれあいバス・予約バスの再編、低床車両の導入、運行情報のGTFS化等

### 周辺市町など広域的な移動の増加

可児市、八百津町など公共交通の沿線市町との連携、市内主要施設への来訪を可能とする

(事業例) 情報の多言語化、観光施設との広報タイアップ、戦国武将のイラスト入り乗車証明書の発行等

### 公共交通の認知度・満足度の向上

関係者連携・協働の下、特にバスの認知度を向上し、非利用者の利用を促す

(事業例) 公共交通を利用したイベント開催、ケーブルテレビ等による情報発信、コンビニのイートインスペースを活用した待合環境の創出等

これらを踏まえ令和2年4月にパブコメを実施、**同年5月に御嵩町地域公共交通網形成計画完成(予定)**